

皆野・長瀬ロータリークラブ

週報

- ◇例会日
- ◇例会場
- ◇事務所



第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
 長瀬レクリエーションホテル 養浩亭
 〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬1446 養浩亭内
 Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp

UNITE
FOR
GOOD

よいことのために手を取りあおう

第1727回例会 令和8年5月7日(木)

【会長の時間】

畝 徳治

皆さん、こんにちは。今日はポール・ハリスが来日した話聞いています。どんな様子だったかの記録があります。2回に分けてお話を致します。

「米山梅吉とポール・ハリス

およびその来日」

ポール・ハリスが昭和10年2月18日からマニラで開かれる第5回太平洋ロータリー会議に国際ロータリーの会長ボブ・ヒルとともに出席し、その折、日本に立ち寄るとの情報がもたらされた。太平洋の船上からもたらされた情報では昭和10年2月6日から9日まで日本に滞在するということがあった。当時のロータリアンにとっては、いわば教祖の来日のようなものである。

東京クラブや横浜クラブでは、これに合わせて、歓迎の陣をはって、いまや遅しとまっていた。ところがなんとといういたずらか、航海中ずっとストームで、船の到着は遅れに遅れた。横浜港到着は、3日遅れの9日の朝5時になってしまった。予定していた準備はすべてご破算、結局東京には1日の滞在もできなくなってしまった。今、その歓迎日程をみて、何とも大変だったことであろう。

東京での歓迎は、すべからく日本風であった。まず、二重橋、明治神宮に。そして、昼食は、芝公園のなかの日本料理の料亭、紅葉館で、畳の上での箸による純日本料理。その後、御木本真珠店、三越へ。夜の宴会、東京会館では、部屋を桜の花咲く隅田川の春景色になぞらい、洋風の窓や戸は日本の提灯で隠し、三囲(みめぐり)神社をまねた建物まである。別室の日本古流の茶室では抹茶の接待が行われる。そして、琴、三味線、尺八による合奏とさくらおどり。

晩餐会では、ポール・ハリスが君が代のオーケストラ演奏中、天皇陛下のために乾杯をした。また、日本側から、東京クラブの名誉会員、前首相斎藤實が米国大統領の健康を祝し乾杯し、その間米国国歌が演奏された。

食事も終わりの頃になり、東京クラブ会長鹿島精一が、また横浜クラブの副会長ソマーラーがそれぞれ会を代表して挨拶し、ついで米山梅吉が歓迎の挨拶を述べた。これに続いて、東京クラブの名誉会員徳川家達(とくがわ いえさと)も挨拶と感想を述べ、次にヒル国際ロータリー



会長の謝辞があつて、最後にポール・ハリスが挨拶をした。ポール・ハリスの話は、米山の胸像が自分の事務室にあることなど、つきることがなかった。接待側は、汽車に乗り遅れるのではないかと気をもみ、もう時間ありませんとメモを入れて、ポール・ハリスの話がようやくと終わった。

一行は、それ行けと、夜9時30分発の寝台急行に乗るべく、東京駅に急いだ。

翌朝、京都で降り、京都ホテルで朝食をとった後、市内観光をした。それから、自動車で大阪に向かい、新大阪ホテルでの午餐会に臨んだ。大阪城や紀州御殿など市内観光の後、自動車で神戸港を目指した。そして、神戸港から、プレジデント・クーリッジ号で、夕刻、日本を後にした。

【幹事報告】

山田 利明



1. 地区事務所より彩の国シラコバト賞実施について
2. 埼玉県腎・アイバンク協会より総会の案内
3. バギオ基金よりバギオだより

【理事役員会報告】

プログラムについて

5月	7	木	通常例会(会員卓話)	理事役員会
	14	木	休会	
	21	木	通常例会	
	28	木	河川敷清掃(夜間例会)	長生館
5月	4	木	通常例会	理事役員会
	11	木	秩父RC合同例会へ振替	6月9日
	18	木	休会	
	25	木	通常例会	

出席率

免除以外の 会員	出席免除 会員	出席	メイク	出席率
8	0	6	0	75.0%

会員卓話



小林 悟会員

タイトルは、服用という言葉ですが、服は着る服ですが、薬を飲むという事とどんな関係があるのだろうかと言をさせていただきます。

病院や薬局でお薬を服用してくださいますと言われると思いますが、服という漢字が使われています。言われてみると、なぜこの漢字かなと思うと思います。薬は飲む、外に塗る、貼るとかあると思います。なぜ服を着るの服を使うのか疑問に思っていただけだと思います。

昔の服は、命を守るために医療に近い存在という事で、服用という言葉のルーツです。健康について考えていくところですが、服はケガとか病気から体を守ったりとかの医療器具のような役割でした。服を着ていなければ、命に関わるようなところだったのかなと想像していただけだと思います。

古代は治療と祈ったりなど、自然の力の組み合わせで、病気とかケガをした時には薬草を信じて飲んだり、そういう物で染めた布で体を覆ったりして、回復を祈るような形が昔にはよくあったかと思っています。そこから服用という言葉が用いられてきたのかなと思います。薬を飲むという事を指すのではなく、病気を治すための行いについて服用という事を意味したのではないかと。内服とか頓服とかありますが、外に使わずに中に使いますという事で内服と言いますが、そういう所の区別を服用ですが、飲むものに関しては内服という言い方もします。衣服を整えるという外側のケアと中のケアと別れるのかなと。

皮膚は体を守る所なので、刺激や体温を調整したり、免疫をつかさどったり、皮膚呼吸もありますし、皮膚を覆ってしまうと皮膚呼吸が出来なくなったりしますので、皮膚は大切に、やけどなどで3分の1を損傷してしまうと、感染症が進んだり、命に関わります。

草木染めですが、今は機能性のある素材がありますが、昔は植物で布を染めたりしました。青い物ですと、抗菌作用があったりして、男の子の体を守るために使われたのではないかなと。ピンクについては血流促進、保湿の力があるので、女の子の体を守るようなところで使われたのではないかと。青っぱいのは男性、赤っぱいのは、女性っぱいかなという事もあります。

衣服に対する価値観ですが、現在と昔では、現代では見た目の重視、昔は機能重視で命を守るという事でした。現代では変化は色褪せは劣化、不良品と考えられ、昔は体を守ってくれた証拠であると感じられたのかなと。今は使い捨ての消耗品ですが、本来は守ってくれた物に対する愛着ではないかと考えられます。

草根木皮は小薬、鍼灸は中薬、飲食衣服は大

薬という事で、食べる物だとか衣服は、一番大きな薬であると。食べ物、衣服に関しては体を一番守ってくれると考えられています。

現代では、薬があれば治るのではないかと考えられる事もありますが、本来医療は生活を整えたり、暮らしに密着したところで、服用、衣服だとか飲食、環境。何かあれば薬を飲むという事が合わさって、日々の生活の質を上げていくと考えられています。

内服は正しく使って、自己治癒力を助けていくようなもの。薬は対処療法、痛ければ痛みを押さえる。症状を押さえるものがメインになっています。自己治癒力、免疫力が一番大切なので、食事、冷えないなど体を守る事が治療で、飲み薬は手助けする物であるので、あわさって服用と表さるのではないかと思います。

肌が感じる心地よさ、食事のおいしさなど五感に目を向けていただき、そして整えることが病気を未然に防ぐ第一歩になるのではないかと考えられます。

免疫力が一番体を守るので、服用という言葉は体全体を整えるという事で、大切になります。今も伝えられているので、服用という言葉を使っているのではないかと考えております。衣服も含めて日々の暮らしのところで、日々体を守るためにバランスの良い食事、暑すぎない、寒すぎない衣服。足りない部分を薬で補うという形で生活していったらいいかなと思い、服用というお話をさせていただきました。



四つのテスト

高田 富康会員

先日の新聞記事ですが、私も名刺交換をした事がありますが、ドトールコーヒーの創業者の鳥羽さんが深谷市に3億円寄付しました。5月1日に鳥羽さんの親戚関係でラグビーをやっている人、現在運転手をやっているのですが、3億円は何のお金かと聞いたところ、熱海の別荘を売却したお金をすべて寄贈したそうです。

ロータリーは一生懸命仕事をして利益をあげて、分け与えましょう。奉仕しましょうという事ですので、そういうニュースがありましたので、お話をさせていただきました。

ニコニコボックス

♪家の中を整理したら、お宝が出てきました。

高田 富康

合計 2,000 円